

宮崎大学におけるチューター活動に関する考察

チューター活動後のアンケート分析より

上原徳子¹ 竹内七奈^{1a}

A Study of Tutor Activities at Miyazaki University
- An Investigation Based on a Questionnaire after Tutor Activity -

Noriko UEHARA and Nana TAKEUCHI

1. はじめに

宮崎大学の留学生数は、平成23年度5月1日現在110名であり、その内、学部生が政府派遣を含めて34名、研究生が5名、大学院生が国費・私費を合わせて60名である。それ以外に特別聴講生とよばれる交換留学生があり、平成23年度5月の段階では11名在籍している¹。

宮崎大学では、入学後、大学院生は1年目、学部生は2年目までの留学生に対し、教育・研究について個別の課外指導を行い、留学生の学習・研究効果の向上を図ることを目的として、指導教員の指導のもとに、宮崎大学が選定したチューターを配置している²。

留学生の受け入れ促進は、宮崎大学にとって数年来の課題である。留学生が直接学生と接するチューター制度は、重要視されるべき問題であるが、これまで宮崎大学のチューター制度について調査や考察が行われたことはほとんどないといっている。本論文は、実際にチューターとして活動した学生とチューター制度を利用した留学生にアンケート調査をし、制度の問題点について考察を行うものである。

なお、本論文は、竹内七奈が平成23年度に卒業論文として宮崎大学に提出した「宮崎大学におけるチューター活動に関する考察（平成24年1月31日提出）」をもとに書かれた。本論文中で使用したデータは卒業論文作成のために収集したものである。1章と2章は、卒業論文にもとづく。3章については、収集データに基づいて新たに執筆した。竹内がデータの考察を行った後、上原が全体を構成し直し、加筆修正した。

1 - 1 チューター制度とは

横田、白土（2004）によると、現在チューター制度は、留学生を支援するためのシステムとして国立大学を中心とした多くの大学で採用されている。この制度は、国立の高等教育機関に

¹ 宮崎大学 教育文化学部

^{1a} 宮崎大学 教育学研究科 学校支援教育専攻 日本語支援教育専修

において1972年度に国費留学生を対象に発足し、1976年度には私費留学生にも適用されるようになった³。小林（2007）によれば、現在は国立大学法人に限らず公立私立大学でも、チューター制度を導入しているところがある。チューターは原則的に留学生の指導教員の推薦に基づき、留学生の専攻分野の関連のある者から大学が選定することになっている。チューター活動の大まかな内容は、大学での勉学・研究・日常生活などの支援であり、謝金が支給される。

宮崎大学におけるチューター制度は、「教育・研究について個別の課外指導を行い、留学生の学習・研究効果の向上を図ること」を目的としており、チューターは指導教員の推薦によって選定される。また、チューターに対して、留学生が早く日本の生活に慣れ、勉強や研究に取り組めるように日常的に彼らに接し、相談相手となって援助することを求めている。宮崎大学の国際連携センターグローバルサポートオフィス（GSO）が示す活動内容は、「 渡日時の出迎え 大学案内 日本での生活に必要な諸手続きの手伝い 学内で必要な諸手続きの手伝い 講義や日本語学習の手助け 図書館等学内施設・掲示板の案内、成績証明書発行機の使い方 交通機関・買い物の案内 日本文化の理解、日本人学生や他の留学生との交流の手伝い その他学生生活や日常生活上の相談相手 卒業生・帰国者に対する注意点。⁴」の以上9項目である。

1 - 2 調査対象と方法

冒頭に述べたように、宮崎大学には私費留学生も多く在籍しているが、本論では、調査対象をまず宮崎大学の交換留学生（国費留学生1名を含む）とそのチューターに絞った。なぜなら、宮崎大学においてチューター活動に関する調査はこれまで行われておらず、初めから全体を対象とするよりもより効果的に調査・分析を行うことができると考えたからである。

以下、実際の支援活動がどのようなものであったのか、また双方がどのような問題点を感じていたのかを留学生・チューター双方へのアンケートとインタビュー調査により明らかにしたい。

2. チューター活動に関する調査

2 - 1 調査の概要

本論文では、以下のようなアンケート調査、インタビュー調査を実施した。

チューター対象アンケート調査の対象は、2010年度の交換留学生のチューター6名、2011年度の交換留学生のチューター6名、2010年度と2011年度の交換留学生のどちらのチューターも担当していたチューター2名の計14名である。

留学生対象アンケート調査の対象は、2010年10月に来日した交換留学生の韓国人3名、中国人3名、2011年10月に来日した交換留学生の韓国人5名、中国人2名、台湾人2名、スロベニア人1名、国費留学生であるカザフスタン人1名の計17名である。調査対象者であるチューターをした学生の概要は表1の通りである。

以下本節では2010年度の韓国人留学生をKa1～Ka3、中国人留学生をCa1～Ca3、2011年度の韓国人留学生をKb1～Kb5、中国人留学生をCb1～Cb2、台湾人留学生をTb1～Tb2、スロベ

ニア人留学生をSb1、カザフスタン人留学生をZb1とする。また、2010年度及び2011年度のチューターはそれぞれJ1～J14とする。留学期間は中国人留学生が半年間、その他の留学生は1年間である。2011年11月の時点で、対象留学生の日本語学習歴は4カ月から11年である。なお、調査対象者である交換留学生の概要は表2の通りである。

表1：調査対象者（チューター）

	J1	J2	J3	J4	J5
学年	3年	M2年	4年	4年	4年
学部	教育文化	工学研究科	教育文化	教育文化	教育文化
	J6	J7	J8	J9	J10
学年	4年	2年	4年	3年	3年
学部	教育文化	教育文化	教育文化	教育文化	農
	J11	J12	J13	J14	
学年	4年	4年	M1年	M2年	
学部	教育文化	教育文化	教育学研究科	工学研究科	

表2：調査対象者（交換留学生）

	Ka1	Ka2	Ka3	Ca1	Ca2	Ca3
国籍	韓国	韓国	韓国	中国	中国	中国
日本語学習歴	2年	7年	6年	4年	4年	1年半
	Kb1	Kb2	Kb3	Kb4	Kb5	Cb1
国籍	韓国	韓国	韓国	韓国	韓国	中国
日本語学習歴	2年	5年	3年	2年	2年	3年
	Cb2	Tb1	Tb2	Sb1	Zb1	
国籍	中国	台湾	台湾	スロベニア	カザフスタン	
日本語学習歴	4か月	3年	11年	3年	3年	

調査は、2011年11月から12月にかけて、アンケート調査（質問事項は全て選択式）、及びインタビュー調査（アンケートの質問事項に関して直接質問）を2010年度及び2011年度交換留学生17名、チューター14名計31名に対して行った。この場合の1回あたりの調査人数は、1名～3名ずつである。すでに帰国していた2010年度交換留学生6名については、メールによってアンケートのみに回答してもらった。

なお、すべてのアンケート調査、インタビュー調査は日本語で行った。

2 - 2 チューター対象アンケート調査、インタビュー調査結果

本節では、チューター対象アンケート調査、インタビュー調査結果について述べていきたい。前節でも述べた通り、調査対象者はチューター14名である。アンケート用紙は、本論文の最後に資料として挙げた。このアンケート調査及びインタビュー調査は、チューターが留学生とどのような活動をしているか、またチューターが活動を通して感じる困難点を明らかにすることを目的として実施した。

まず、設問1では、チューターになったきっかけを尋ねた。14名中13名(92.9%)が「研究室の先生からの依頼」を選択した。「自らの希望」を選択したチューターはいなかったが、「研究室の先生からの依頼」を選択した13名中、「自らの希望」も含まれると回答したチューターが3名(21.4%)(J1、J5、J7)見られた。1名(7.1%)(J10)は「その他」を選択し、自由記述欄に「ドイツ語の先生からの依頼」と回答していた。「研究室の先生からの依頼」と回答したチューターの中には、「研究室の学生が自分しかいなかったから」(J12)、「研究室の中で自分が車持ちだから」(J3)という理由で選抜されたチューターもあり、積極的な理由で希望したチューターは非常に少ないことがわかった。

「自らの希望」でチューターになる学生が少ないのは、宮崎大学のチューターの選抜方法が、留学生の指導教員からの推薦という形をとっていることが原因の一つと考えられる。

なお、研究室の先生から依頼された際に、活動について何か説明があったか、インタビューで直接尋ねたところ、13名中8名(61.5%)(J1、J6、J7、J10、J11、J12、J13、J14)が「特になかった」と回答した。6名(42.9%)(J2、J3、J4、J5、J8、J9)は、「手続きや買い物等の手伝いをしてあげて」や「話し相手になってあげて」といったように軽く説明は受けたと回答した。7名とも同様の説明を受けたようだが、日本語指導に関する説明があったと回答したものは1名もいなかった。

設問2では、設問1で「自らの希望」と回答したチューターに、その理由を尋ねた。この質問には、設問1で「研究室の先生からの依頼」と「自らの希望」の両方であると回答した3名が回答した。3名中1名(33.3%)(J7)が「語学を勉強したいから」、2名(66.7%)(J1、J5)が「その他」を選択し、自由記述欄では「留学期間に助けてくれたチューターのように、自分も留学生の手助けをしたいと思った」(J1)、「海外で外国の人に優しくしてもらったので、その恩返しがあったから」(J5)と回答した。なお、「語学の勉強がしたいから」、「海外留学を考えているから」、「国際的感覚を身につけておきたいから」と回答したチューターはいなかった。

この質問に対する回答から、「自らの希望」でチューター活動をするようになった人は、「海外でお世話になったため、自分も日本にいる外国人の手伝いがしたい」という気持ちから希望していることがわかる。

設問3では、担当している留学生とどのような活動をしているかを複数回答可で尋ねた。この質問では4名全員(100%)が「買い物、ドライブ、食事などの外出」を選択していた。また、12名(85.7%)(J1、J2、J3、J5、J6、J7、J9、J10、J11、J12、J13、J14)が「日本語学習や会話練習(おしゃべりも含む)」を選択し、2番目に多い回答だった。その他、「授業・研究に関する援助」、「課題・宿題・レポートの補助」、「日本文化紹介・文化交流・異文化体験」、「その他(バイト)」の項目を順番にそれぞれ、5名(35.7%)(J2、J9、J12、J13、J14)、5名

(35.7%) (J6、J9、J11、J12、J13)、4名 (28.6%) (J1、J3、J10、J12)、1名 (7.1%) (J4) が選択していた。活動内容は幅広いが、ほとんどのチューターの活動内容が日本語による会話や外出であることがわかった。

なお、これらの回答について具体的な活動内容をインタビューで直接尋ねた。まず、「買い物、ドライブ、食事などの外出」については、「留学生から要望があったときに買い物に行った」(J4)、「ご飯を食べに行ったり、街を紹介したりした」(J9)、「観光名所に遊びに行った」(J3) という回答があった。「日本語学習や会話練習 (おしゃべりも含む)」については、「会話の中でのわからない言葉や方言を教えてあげた」(J10)、「スピーチの添削や練習」(J5)、「名言集を見せてあげた」(J3)、「日本語の教科書を用いて日本語を教えた」(J14) という回答があった。この項目を選択した12名全員が「おしゃべりの中で日本語を教える」といった回答をしている。「課題・宿題・レポートの補助」については、「授業でわからなかったところを教えてあげたり、一緒に日本語教師の勉強をしたりした」(J9) という回答が見られた。「日本文化紹介・文化交流・異文化体験」については、「祭りなどに連れて行く」(J1) という回答があった。また、「その他 (バイト)」を選択したJ4は、「留学生に紹介して、一緒にバイトをしていた」と回答した。

設問4では、担当している留学生と会う頻度を尋ねたところ、14名中6名 (42.9%) (J1、J5、J6、J8、J9、J11) が「1週間に1回」、5名 (35.7%) (J2、J3、J4、J10、J12) が「2週間に1回」、2名 (14.3%) (J13、J14) が「毎日」、1名 (7.1%) (J7) が「月に1回」と回答した。「1週間に1回」を選択したチューターの中で2名が、「曜日を決めて、1週間に2～3回会う」と回答した。「毎日」を選択した (J14) は、「同じ研究室に所属しており、部屋も隣。分からないことがあったら、留学生の方から聞きに来るので、毎日会う」と回答した。

この質問に対する回答から、対象者の78.6%が「1週間に1回」もしくは「2週間に1回」のペースで留学生と会うことがわかった。

設問5では、チューター活動の中で最も大変だったことは何か尋ね、該当する項目が複数ある場合は、数字で順番を付けてもらった。下記に示す結果は、複数回答者が1番目にマークしていた項目を参考にしたものである。この質問について、14名中「講義や日本語学習の手助け」(J2、J9、J13)、「その他」(J3、J5、J8) を選択したチューターがそれぞれ3名 (21.4%) ずつ、「日本の生活に必要な諸手続きの手伝い」(J7、J14)、「日本文化の理解、日本人学生や他の留学生との交流の手伝い」(J1、J11) を選択したチューターがそれぞれ2名 (14.3%) ずつ。「渡日時の出迎え」(J6)、「交通機関・買い物の案内」(J4)、「学生生活や日常生活上の相談相手」(J12) を選択したチューターがそれぞれ1名 (7.1%) ずつであった。また、J10は途中からチューターをすることになり、来日時必要な手続きなどには関与していなかったため、「大変だったことはない」と回答した。「大学案内」、「学内で必要な諸手続きの手伝い」、「図書館等学内施設・掲示板の案内、成績証明書発行機の使い方」を選択したチューターはいなかった。

なお、これらの回答について具体的な状況をインタビューで直接尋ねた。まず、「講義や日本語学習の手助け」については、「他のことは自分でできるけど、日本語はチューターの助けが必要になる。教えてあげたいが、うまく説明できない。」(J13) という回答があった。「その他」を選択した3名はそれぞれ、「病気をした際、留学生が保険証を持っていなかったこと」(J3)、「簡単な日本語で話すことを意識しなければならなかったこと」(J8)、「携帯電話やパソコンを購入した時」(J5) と回答した。「日本での生活に必要な諸手続きの手伝い」については、

「自分もしたことがないので、よくわからなかった」(J14) という回答があった。「日本文化の理解、日本人学生や他の留学生との交流の手伝い」を選択したチューターは2名とも、「コーディネートしたが交流の手伝いは難しく、どうしてあげればよいかわからない」と回答していた。「渡日時の出迎え」、「交通機関・買い物の案内」、「学生生活や日常生活上の相談相手」をそれぞれ選択した3名は、「敢えて選ぶなら、この項目になるが、そこまで大変ではなかった」と回答した。

「大変だった」と感じることは人によってさまざまだが、「日本語学習の手助け」や「日本人との交流の手伝い」については、チューターが長期にわたって向き合わなければならない課題だろう。また、保険証などの手続きは、大学の国際連携係ともしっかりと緊密な連絡があっべき性格のものであり、チューターが一人で抱え込む性質のものではない。

設問6では、チューターをしていて困ったことはあるか尋ねたところ、対象者14名中9名(64.3%)がYES、5名(35.7%)がNOと回答した。

この結果からチューターの半数以上がチューター活動の中で困難を感じていることがわかった。

設問7では、設問6でYESと回答した対象者に、どのようなことで困ったのか尋ねた。この設問では、該当する項目が複数ある場合は、数字で順番を付けてもらった。下記に示す結果は、複数回答者が1番目にマークしていた項目である。この質問において、YESと回答した対象者9名中、「何をすればいいかわからない」(J7、J11、J12)、「その他」(J5、J6、J13)を選択していたチューターがそれぞれ3名(21.4%)ずつ、2名(14.3%) (J2、J9)が「日本語の教え方がわからない」、1名(7.1%) (J8)が「自分は必要ないように感じる」を選択した。

なお、これらの回答について具体的な状況についてインタビューで直接尋ねた。まず、「何をすればいいかわからない」については、「留学生の方から要望がないから、何をすればいいかわからない」(J7)という回答があった。「その他」を選択した3名はそれぞれ、「どこまで手助けしていいかわからない」(J5)、「留学生同士の人間関係」(J13)、「毎日暇過ぎると言われた時」(J6)と回答した。

設問7についての質問した後に、担当している留学生に対して何か感じることもあるか、直接尋ねた。対象者14名中、「何をすればいいかわからないのか、留学生の満足のいく活動ができているのかという疑問を感じる」(J3、J6、J10)、「感覚の違いに戸惑った」(J1、J4、J5)、「留学生同士のコミュニティに入りづらい」(J2、J8、J9)という内容の回答をしたチューターがそれぞれ3名(21.4%)ずつであった。この質問に対する回答から、設問7で、「何をすればいいかわからない」を選択していない対象者も、同様の考えを持っていることがわかった。

設問7に関する質問に対する回答(2番目に選択していた回答も含め)を総合的に見ると、半数(50%) (J3、J5、J7、J8、J10、J11、J12)のチューターが留学生の要望や連絡がないと、何をすればいいかわからない状況にあることが明らかになった。

設問8では、チューター活動をしていて、よかったと思うことは何か尋ねた。この設問では、該当する項目が複数ある場合は、数字で順番を付けてもらった。下記に示す結果は、複数回答者が1番目にマークしていた項目を参考にしたものである。対象者14名中9名(64.3%) (J2、J5、J6、J7、J8、J9、J10、J12、J13)が「留学生と接することで視野が広がったこと」を選択し、最も多かった。次に多かった回答は、「留学生と互いに成長し合えるような関係を築けたこと」で、3名(21.4%) (J1、J3、J11)が選択していた。その他2名(14.3%) (J4、J14)

が、「留学生の役に立てたこと」を選択していた。「その他」を選択していたチューターはいなかった。

なお、これらの回答について具体的な状況をインタビューで直接尋ねた。まず、「留学生と接することで視野が広がったこと」については、「留学生の母国の文化や触れることができた」(J2、J5、J6、J10)、「感覚や価値観の違いに気付かされた」(J9、J12、J13)、「刺激を受けて、向上心が芽生えるようになった」(J7、J8)といった内容の回答が得られた。「留学生と互いに成長し合えるような関係を築けたこと」については、「語学の面で、お互いに教え合うことができた」(J11)という回答があった。また、J8は「留学って案外大丈夫なんだ」と考えるようになり、留学を決めたと話し、将来留学をする自分の姿と重ね合わせる様子もうかがえた。

これらの回答から、留学生のチューターをすることは学生自身にも何らかの肯定的効果をもたらしていると考えられる。

最後の設問9では、チューター活動の中で何を改善したいか尋ねた。この設問では、該当する項目が複数ある場合は、数字で順番を付けてもらった。下記に示す結果は、複数回答者が1番目にマークしていた項目を参考にしたものである。対象者14名中4名(28.6%) (J2、J4、J10、J12)が「日本語学習や会話練習(おしゃべりも含む)」を選択し、「課題・宿題・レポートの補助」(J3、J6、J13)、「日本文化紹介・文化交流・異文化体験」(J1、J9、J14)、「友人を紹介」(J5、J8、J11)を選択したチューターがそれぞれ3名(21.4%)ずつ、1名(7.1%) (J7)が「学校生活や日常生活上の相談相手」を選択した。「買い物、ドライブ、食事などの外出」を選択したチューターはいなかった。日本語のサポートをしてあげたいと考えるチューターが一番多いことが読み取れる。

なお、これらの回答について具体的な考えをインタビューで直接尋ねた。まず、「日本語学習や会話練習(おしゃべりも含む)」については、「日本語についての知識をもっと教えてあげたい」(J12)という回答があった。「課題・宿題・レポートの補助」については、「日本語試験に向けての細やかな指導をしたい」(J13)、「日本文化紹介・文化交流・異文化体験」については、「季節ごとの行事に参加させたい」(J1)、「学校生活や日常生活上の相談相手」については、「もっとしっかりサポートしたい」(J7)といった回答が得られた。

以上のチューター対象アンケート調査、インタビュー調査の結果からは、以下のようなことが明らかになった。

チューター全員が留学生の指導教員の依頼でチューター活動をしている。

チューター達は活動内容についての事前説明が不十分であると感じている。

活動内容は、日本語での会話や外出が中心である。

対象者全員が日本語指導に困難を感じている。

半数のチューターが活動として何をしたいかわからない状態にある。

2 - 3 交換留学生対象のアンケート調査、インタビュー調査結果

本節では、前節に引き続き交換留学生対象のアンケート調査、インタビュー調査結果について述べていきたい。対象者は、本章の第1節でも述べたように2010年度及び2011年度交換留学生および国費留学生17名である。アンケート用紙は、資料として挙げた。このアンケート調査・インタビュー調査は、交換留学生がチューターとどのような活動をしているか、また留学生が

チューターに何を望んでいるのかを明らかにすることを目的として実施した。

まず、設問1では、チューターとどのくらいの頻度で会っているか尋ねた。対象者17名中8名(47.1%) (Ka1、Kb4、Kb5、Ca1、Ca2、Ca3、Sb1、Zb1)が「1週間に1回」、5名(29.4%) (Ka2、Ka3、Kb1、Kb3、Cb1)が「月に1回」、3名(17.6%) (Cb2、Tb1、Tb2)が「毎日」、1名(5.9%) (Kb2)が「それより少ない」(3回)を選択した。また、「1週間に1回」を選択した7名中、Zb1が「2週間に1回」、Kb5が「1週間に2回」、Sb1が「1週間に3~4回」と回答した。「毎日」を選択した、Cb2とTb2は「チューターは研究室が一緒だから毎日会う」と回答した。Kb1とKb2はほとんどチューターと会えていないようだった。

設問2では、この頻度に対してどう思うか尋ねた。17名中12名(70.6%) (Ka1、Kb1、Kb2、Kb3、Kb4、Kb5、Ca3、Cb2、Tb1、Tb2、Sb1、Zb1)が「今のままでちょうどよい」、4名(23.5%) (Ka3、Ca1、Ca2、Cb1)が「もっと頻繁に会いたい」、1名(5.9%) (Ka2)が「もっと少なくてもよい」と回答した。「その他」と回答した留学生はいなかった。

この結果から、過半数の留学生が会う頻度について、回数はばらばらではあるものの現状のままでもよいと考えていることがわかる。

設問3では、チューターとどのような活動をしているか複数回答可で尋ねた。この質問において、最も多かった回答は「日本語学習や会話練習(おしゃべりも含む)」であり、17名中16名(94.1%) (Ka1、Ka2、Kb1、Kb2、Kb3、Kb4、Kb5、Ca1、Ca2、Ca3、Cb1、Cb2、Tb1、Tb2、Sb1、Zb1)が選択していた。次に多かった回答は「買い物、ドライブ、食事などの外出」であり、13名(76.5%) (Ka1、Ka3、Kb3、Kb4、Kb5、Ca1、Ca2、Cb1、Cb2、Tb1、Tb2、Sb1、Zb2)が選択していた。その他は、「日本文化紹介・文化交流・異文化体験」、「課題・宿題・レポートの補助」、「授業・研究に関する援助」、「その他」がそれぞれ、10名(58.8%) (Ka1、Kb3、Kb4、Kb5、Ca2、Ca3、Cb1、Cb2、Tb1、Sb1)、8名(47.1%) (Ka1、Ca1、Ca2、Cb2、Tb1、Tb2、Sb1、Zb1)、7名(41.1%) (Ka1、Ca1、Ca2、Ca3、Tb1、Tb2、Sb1)、2名(11.8%) (Ka3、Kb1)であった。その他を選択した2名は自由記述欄にそれぞれ、「カラオケ」(Ka3)、「何もしていません」(Kb1)と記入していた。

なお、この回答について具体的な状況をインタビューで尋ねたところ、Sb1から「チューターとよく学校でお昼ごはんを食べたり、イベントに連れて行ってもらったりしている」という回答が得られた。

チューター対象の調査結果と同様に、多くの交換留学生が活動内容として、「日本語学習や会話練習(おしゃべりも含む)」や「買い物、ドライブ、食事などの外出」を選択している。

設問4では、チューターとの活動の中で困ったことやもっとこうして欲しいといった要望はないか尋ねた。対象者17名中11名(64.7%) (Ka1、Kb4、Kb5、Ca1、Ca2、Ca3、Cb2、Tb1、Tb2、Sb1、Zb2)がNO、6名(35.3%) (Ka2、Ka3、Kb1、Kb2、Kb3、Cb1)がYESと回答した。過半数の留学生は現状に満足しているとみてよいだろう。

設問5では、設問4でYESと回答した対象者に、困ったことや要望について具体的内容を尋ねた。この設問では、該当する項目が複数ある場合は、数字で順番を付けてもらった。下記に示す結果は、複数回答者が1番目にマークしていた項目である。YESと回答した6名中4名(66.7%) (Ka3、Kb1、Kb2、Cb1)が「チューターが忙しそうであり会えない」と回答していた。その他の回答は、「もっと日本語を教えてほしい」が1人(16.7%) (Kb3)、「その他」が1名(16.7%) (Ka2)であった。「その他」を選択したKa2は自由記述欄に「日本語の勉強

よりいろんなとこに一緒に行ってたらよかった」と回答した。「チューターと意思疎通が難しい」、「あまり干渉しないで欲しい」と回答した留学生はいなかった。

なお、この回答についてインタビューで直接尋ねたところ、Kb2は「今は慣れてきたから大丈夫だけど、最初の方は会えた方がよかった」と回答した。

この質問に対する回答から、チューター活動に不満を感じる大きな原因として「チューターと会えないこと」があることがわかる。

設問6では、設問5の問題をその後どのように解決したか複数回答可で尋ねた。6名中3名(50.0%) (Ka2、Ka3、Kb2)が「気にしなくなった」と回答した。「自分から積極的に連絡を取ったり、話しかけたりした」(Kb1、Cb1)、「他の日本人学生と仲良くしていた」(Ka2、Kb2)がそれぞれ2名(33.3%)であった。その他の回答は、「自分から頼んだ」(Kb3)、「解決できなかった」(Kb1)がそれぞれ1名(16.7%)であった。

なお、これらの回答についてより具体的な状況をインタビューで直接尋ねた。「自分から積極的に連絡を取ったり、話しかけたりした」を選択したKb1、Cb1はそれぞれ、「メールをするが、返事が遅くてなかなか連絡が取れない」、「今はまだしてないけど、これからする予定だ」と回答した。

設問7では、チューター活動を通してよかったと思ったことは何か尋ね、該当する項目が複数ある場合は、数字で順番を付けてもらった。下記に示す結果は、複数回答者が1番目にマークしていた項目である。なお、対象者17名中1名が複数選択し、順番を付けていなかったため無効とし、有効回答数を16名とする。この質問に対する回答は、「手続き等をスムーズに行うことができた」(Ka1、Cb1、Sb1)、「チューターと互いに成長し合えるような関係が築けた」(Ka1、Ca2、Tb2)、「チューターを通して交友関係が広がった」(Ka1、Ka3、Kb3)、「その他」(Kb1、Kb2、Zb1)がそれぞれ3名(18.8%)であった。その他は、「語学の勉強の助けになった」(Cb2、Tb1)、「日本の文化や習慣を学ぶことができた」(Kb4、Kb5)と回答した留学生がそれぞれ2名(12.5%)であった。「その他」と回答した3名は自由記述欄にそれぞれ、「ありません」(Kb1)、「分かりません」(Kb2)、「宮崎の生活になれてきています」(Zb1)と記入している。以上のことからKb1とKb2はチューターとの活動がうまくいっていないことが推測できた。

設問8では、留学生がチューターに何を望んでいるか尋ね、該当する項目が複数ある場合は、数字で順番を付けてもらった。下記に示す結果は、複数回答者が1番目にマークしていた項目を参考にしたものである。対象者17名中6名(35.3%) (Ka1、Ka2、Ka3、Kb3、Ca1、Sb1)が「交友関係の広がり」と回答した。また、「買い物、ドライブ、食事などの外出」(Cb1、Tb1、Tb2、Zb1)、「日本語学習や会話練習」(Kb4、Kb5、Ca2)、「日本文化紹介・文化交流・異文化体験」(Kb1、Kb2、Cb2)、「課題・宿題・レポートの補助」(Ca3)と回答した留学生はそれぞれ4名(23.5%)、3名(17.6%)、3名(17.6%)、1名(5.9%)であった。

この質問に対する回答から、チューターに「交友関係の広がり」を期待している留学生が最も多いことが読み取れる。

なお、この回答について具体的な考えをインタビューで直接質問したところ、Zb1から「日本語の勉強は自分でできるから、チェックのみしてもらえばいいから、もっと他のことがしたい」という回答が得られた。

交換留学生対象アンケート調査、インタビュー調査結果全体から、下記のようなことが明ら

かになった。

「チューターが忙しくてあまり会えない」ことに不満がある留学生が多い。

サポートが必要な初期段階で、チューターとあまり接触できていない留学生がいる。

交換留学生は、チューターとの活動の中で、本格的な日本語学習よりも、「交友関係の広がり」や「外出」など友人として交流することを期待している。

会う頻度や活動について、留学生の過半数が現状に満足している。

2 - 4 調査についての考察

本節では、第2節及び第3節で述べた調査結果から考察をしていきたい。

チューター対象の調査結果からは、チューターの半数が日本語指導を含めて何をしたいかわからない状態にあり、64.3%が困難を感じたことがあることが明らかになった。これには、選定方法が推薦式であること、チューターの活動内容が明確化されていないことに原因があるのではないだろうか。

交換留学生対象の調査結果からは、チューターに「交友関係の広がり」を期待している留学生が最も多いにもかかわらず、留学生の35.3%がチューターと十分な活動ができておらず、その中にはほとんどチューターに会えない留学生もいることが明らかになった。

なお、2つの調査結果を比較すると以下のようなことがいえるだろう。

困ったことがあるかを尋ねると、チューターは64.3%がYESと回答したのに対し、留学生では35.3%であった。留学生ではなく、チューターの方が、試行錯誤しながら活動を行っていることがわかった。チューターが困難を覚えるのは、「日本語指導」「活動内容」である。

来日直後でサポートが必要な時期に、互いに消極的になっており、意思疎通ができていないチューターと留学生のペア（例えばJ12とKb1）が数組ある。

チューターと留学生が共に活動に積極的な場合は、両者とも悩みが少なく、互いにプラスになる関係（例えばJ1とKb4）にある。

以上のような調査結果から、宮崎大学においてはチューター活動で以下のような問題点があるといえるだろう。

チューターの選定方法が公募式でなく推薦式であるので、チューターの活動に対する意欲、積極性に差がある。

チューターの活動内容が明確でないため、日本語指導を含め、何をすればいいかわからない状態にある。手続きなどの具体的な面では、もっと大学のサポート（情報提供）があってよい。

留学生が来日直後である援助が一番必要な時期にチューターによる十分なサポートを受けられていない場合がある。

よって、双方にとって困難を感じる状況にあるといえるだろう。

今回の調査で、チューター活動における留学生のニーズが友人としての交流にあることが明らかになったが、現状は、交友関係の広がりも含め十分に交流できている場合、手続き等の補助しか行えていない場合、どちらも十分に活動できていない場合と様々である。次節では、交換留学生とチューターのペアごとの分析を行い、日本人チューターがどのような支援を行い、そこからどのような効果が見られたのか詳しく考察していく。

3. 交換留学生とチューターのペア分析

3 - 1 ペアごとの分析

前章における調査結果の考察から、交換留学生とチューターのペアの中には、チューター活動に対してお互いに積極的なペア、消極的になってしまっているペアが数組ずつ存在することがわかった。本節では本研究で行った交換留学生対象、チューター対象のアンケート・インタビュー調査の対象者の中から、対応している交換留学生とチューターのペア10組を対象にし、調査結果を元にペアごとに分析していきたい。なお、今回調査対象としたチューター、留学生の中には、ペアとなる相手からうまく回答を得られなかった場合があり、ペアとしての分析対象は10組となった。

以下本節では、留学生Kb5とチューターJ1をペアA、留学生Kb4とチューターJ6をペアB、留学生Ka3とチューターJ10をペアC、留学生Zb1とチューターJ5をペアD、留学生Ka1とチューターJ9をペアE、留学生Ca2とチューターJ11をペアF、留学生Kb3とチューターJ8をペアG、留学生Kb1とチューターJ12をペアH、留学生Cb1とチューターJ7をペアI、留学生Cb2とチューターJ14をペアJとする。ペア分析対象者の概要は表の通りである。なお、この表は副田 (2011) を参考に作成した。

ペアごとの分析結果は以下の通りである。

表3：ペア分析対象者

	ペアA	ペアB	ペアC	ペアD	ペアE
留学生	留学生Kb5	留学生Kb4	留学生Ka3	留学生Zb1	留学生Ka1
国籍	韓国	韓国	韓国	カザフスタン	韓国
日本語学習歴	2年	2年	6年	3年	2年
チューター	チューターJ1	チューターJ6	チューターJ10	チューターJ5	チューターJ9
所属学部	教育文化	教育文化	農	教育文化	教育文化
	ペアF	ペアG	ペアH	ペアI	ペアJ
留学生	留学生Ca2	留学生Kb3	留学生Kb1	留学生Cb1	留学生Cb2
国籍	中国	韓国	韓国	中国	中国
日本語学習歴	4年	3年	2年	3年	4ヶ月
チューター	チューターJ11	チューターJ8	チューターJ12	チューターJ7	チューターJ14
所属学部	教育文化	教育文化	教育文化	教育文化	工学研究科

ペアA

チューターJ1は留学先でチューターに世話になったことがきっかけで自分もチューターを志望。会う頻度は週に2、3回、曜日を決めて会い、おしゃべりや買い物・食事・観光などの外出をしており、留学生も活動に満足していた。交流の手伝いをしてあげたい（どうしたら友達になれるのか）、日本の季節ごとの行事を見せてあげたいと留学生のニーズに応えたいと積極性が見られた。

ペアB

チューターJ6は留学経験があり、研究室の先生からの依頼でチューターとなった。会う頻度は週に1、2回で、おしゃべりや買い物・食事などの外出や課題の補助を行っており、留学生も活動に満足していた。交友関係を広げてあげたい、課題などをもっと見てあげたいと積極的な姿勢が見られた。お互いに気を遣いすぎないバランスの良い関係である。

ペアC

チューターJ10は留学生Cの前のチューターがチューターとしては不適切であったため、韓国語を受講していたこともあって先生からの依頼で2番目のチューターとなった。会う頻度は月1、2回、活動内容はおしゃべりや食事・カラオケなどの外出など。相手が異性ということもあって、チューターは自分でいいのかという申し訳なさもあったようだ。留学生Ka3はもう少し頻繁に会って活動がしたかったようである。

ペアD

チューターJ5は自らの海外での経験と先生からの依頼がきっかけで外国人の手助けをしたいと思い、チューターとなった。会う頻度は留学生Zb1が用事がある時2週間に1回程度で、活動内容はおしゃべりやスピーチの添削や練習、買い物などの外出である。チューターJ5は留学生Zb1の交友関係のことを気にしていた。お互いどこまで頼っていいか、手助けしていいかわからず、遠慮している様子であった。

ペアE

チューターJ9は日本語教師になることを考えていたこともあり、先生からの依頼でチューターになった。会う頻度は曜日を決めて、あるいは必要な時に週に1回程度。活動内容は、おしゃべりや日本語教育の勉強、食事・観光などの外出などである。日本語教師という共通の目標があったため、学習は有意義に行われていた。ただ、チューターJ9は、留学生のコミュニティに入りづらいことや、上下関係（留学生Ka1が年上であるため）のことを少し気にしていた。

ペアF

チューターJ11は留学経験があることもあり、先生から勧められてチューターをすることになった。会う頻度は、用事がある時に連絡をとって週に1回程度で、活動内容はおしゃべりやレポートの添削、食事などの外出などである。チューターJ11は自分が何もやってあげられないこと（どうしていいかわからない）に申し訳なさを感じており、友人を紹介してあげればよかったという反省点もある。留学生Ca2の方ももっと頻繁に活動をしたがっていた。

ペアG

チューターJ8は先生からの依頼でチューターとなった。会う頻度は2週間に1回程度で、ゼミで集まって食事などをしていた。チューターJ8は自分発信で交友関係を発展させてあげられないことや、留学生のコミュニティに入りづらく、どこまで介入していいのが気にしていたが、留学生Kb3の方はもっと日本語を学びたいという要望があった。また、チューターJ8は留学生と接することで留学を身近なものに感じるようになり、留学を決意するきっかけとなった。

ペアH

チューターJ12は研究室の学生が自分だけであったため、先生から依頼され、チューターとなった。会う頻度は1カ月に1回程度で、ほとんど会えていない。チューターJ12の方は「留学生Kb1に曜日を決めて会おうと言っても、「大丈夫です」と言われたから会えてない」、留学生Kb1の方は「チューターJ12が忙しそうであり会えない、連絡しても返事が遅いから会えてない、チューターを代えて欲しい」と話しており、すれ違いが生じていた。

ペアI

チューターJ7は中国語学習や会話練習を積極的に行っていたので、先生から依頼されてチューターをすることになった。会う頻度は月に1回程度で、活動内容は他の留学生のチューターや留学生も一緒に食事や買い物などである。チューターJ7は留学生からの要求がないと（特に異性であるため）何をしてもいいかわからない状態にある一方、留学生Cb1はもっと頻繁に会いたいと思っており、すれ違いが生じていた。

ペアJ

チューターCb2は研究室の院生であるため、先生からの依頼でチューターとなった。研究室が一緒に、部屋は隣なので毎日会っていた。チューターCb2は留学生ではないが在日中国人であるため、母語は中国語である。そのため、自分も同じような経験をし、気持ちがわかるので、語学面でも生活面でもサポートが行き届いていた。語学学習に関しては留学生Cb2も満足している。また、所属研究室の学生が積極的なので、充実した交流が行えていたようだ。

3 - 2 ペアごとの分析結果についての考察

前節におけるペアごとの分析結果から、全体の傾向として、チューター活動の多くが「日本語学習支援というよりは、日本語での雑談を中心としたもの」であることがわかった。

10組のペアは、以下の3つにグループ分けすることができるだろう。ペアA、ペアB、ペアJは留学生、チューター双方向から積極的にはたらきかけて有意義な活動が行うことができているグループ、ペアC、ペアD、ペアE、ペアF、ペアG、ペアHはチューターが試行錯誤しながらも有意義な活動を行おうという姿勢が見られ、気遣っているが、留学生の要望にあまり応えられていないグループ、ペアH、ペアIは双方とも活動に消極的で、ほとんど会えていないグループである。

グループのペアA、ペアB、ペアJの活動がうまくいっている要因としては、双方が友人としての関係、もしくは仲の良い先輩後輩の関係に近いことが挙げられる。双方向にコミュニケー

ションを取ることが比較的容易であると思われる、満足度の高い活動が行えたと思われる。ただし、ペアJについては、母国語が同じペアであるため、他のペアとは全く同じ条件とはいえない。

グループ のペアC、ペアD、ペアE、ペアF、ペアG、ペアHの活動内容からわかるのは、チューターの異文化への戸惑いやチューター役の学生が「日本語学習の手助け」や「日本人との交流の手伝い」などのチューターとしての役割をしっかりと果たさなければという責任感が強すぎて、チューターと留学生との間で意思のずれを生じさせていることである。留学生が求めているのは、「友人的な役割」であるが、日本人学生にはそのようには受け止められていなかったということであろう。

グループ のペアH、ペアIが活動に消極的だったのは、チューターがどのように支援を行えばいいかわからなかったことと、両者とも連絡を待つだけの状態で意思疎通がほとんど取れていないことが原因として考えられる。

留学生の側からの積極的なはたらきかけは、彼らの日本語力が元々ある程度の水準にあるからこそ可能である。調査の対象となった留学生はみな日本語がある程度できていたが、日本語が不自由な場合は、このようなケースはさらに多くなるのではないか。連絡がうまくいかなかったときや両者の性格がどうしても合わないときに調整を行う仕組みがないことも原因の一つと考えられる。

また、ペアJは、母国語を同じくする者がチューターをしたことでうまくいったケースである。理系の研究室所属という環境も他のペアとは異なっていた。留学生が置かれる環境に応じた支援が考慮されるべきだろう。

4. まとめと今後の課題

本章では、第2章でのチューター活動に関する調査結果と、第3章でのペアごとの分析結果をまとめ、宮崎大学におけるチューター活動の課題について言及していきたい。

第2章では、留学生とチューター双方の感じている問題点を明らかにするための調査を実施し、考察を行った。留学生とチューター双方から調査することによって、留学生のチューター活動におけるニーズが友人としての交流にあること、チューターの全員が日本語の教え方に、半数が「何をしたいかわからない」ことに困難を感じているため、十分な活動が行えていないことが明らかになった。その原因として、チューターの選定方法に問題があることやチューターが自分の活動内容を把握できていないことが考えられる。

第3章では、交換留学生とチューターのペアごとの分析を行ったところ、留学生支援として効果的な活動ができているペア、チューターが自分の役割に気を取られ、試行錯誤の状態であるペア、ほとんど機能していないペアがあることが明らかになった。また、双方とも活動に積極的なペアは満足度の高い活動が行えていることもわかった。そこから、宮崎大学におけるチューター活動における課題は、チューターとなる学生にどのような支援を行えばいいか把握してもらうことであることが明らかになったといえるだろう。また、チューターとなる、国際交流に積極的な学生を事前に公募しておき、留学生とのマッチングを行えば、満足度の高い活動を行えるペアが増えるのではないだろうか。

以上、本稿における調査結果を受けて、宮崎大学のチューター活動には以下のような点で改

善が必要ではないか。

チューターの募集と選定、留学生とのマッチング：研究室単位での選出に利点があることは理解できるが、国際交流に積極的な学生を登用する道をつくったらどうか。また、ミスマッチが起こって消極的な活動しか行われていないペアについてはチューターを変えるなど積極的な措置をとれないか。逆に、チューターは必要ないと感じている留学生については、短期間でペアを解消するなど柔軟な対応はできないか。

チューターガイドブックの作成（これについては松本（2003）を参考にした）：ガイドブックには制度の概要、具体的な役割、留学生とチューターの感想文などを載せるのがよいだろう。個人の体験を感想文という形で紹介することで、活動内容を提示するだけより、チューターを務める学生には活動がイメージしやすい。

活動状況の把握の徹底：チューターと留学生に対するアンケート調査とインタビュー調査を行う、また活動報告書を毎月提出させるなどして、チューター活動の現状をもっと積極的に把握できないか。調査結果や報告書の内容をガイドブックへ反映させることにも有効であると考えられる。

ただし、以上のような活動をいざ実行しようとする際には多くの困難があることも事実である。実際にチューター活動を統括しているのは、宮崎大学ではGSO（国際連携センター・グローバルサポートオフィス）であるが、担当の職員が不足している。では、その活動を補助できるような学生組織が作れるかといえば、これが（チューターに謝金が発生するなど）公的な活動である以上、学生が関与できる部分は限られる。

当面は、チューターの選出方法、ペアがうまくいかないときの柔軟な対応など、現在の体制でも対応可能な部分から改善を図るしかない。

現在に至るまで各大学個別の調査と考察、提言が数多く行われている。各大学の留学生支援には固有の問題が大きいことは承知しているが、日本の大学が抱える留学生支援の問題全体について考察を深める段階にきているのではなからうか。チューター活動は、留学生と学生が直接ふれあう場であり、ここでの問題点をボトムアップすることは大学の留学生政策全体にとって重要なことである。したがって、今後もチューター活動に関する調査を継続し、これがチューター、留学生双方にとってより有意義な活動になるような提言を行っていきたい。

注

- 1 宮崎大学ホームページ (http://www.of.miyazaki-u.ac.jp/~ryugaku/i_tutor/i-1.html) (最終閲覧日2012年5月5日)
- 2 宮崎大学国際連携センターホームページ (http://www.of.miyazaki-u.ac.jp/~ryugaku/i_tutor/i-1.html) (最終閲覧日2012年5月5日)
- 3 横田雅弘, 白土悟 (2004) 『留学生アドバイジング 学習・生活・心理をいかに支援するか』ナカニシヤ出版 第六章 「修学・生活問題に対するアドバイジング」 「第二節 修学上の問題 チューター制度の運営と問題」 (1) チューター制度 (pp.165)
- 4 チューターオリエンテーション資料 (2011年9月27日配布 宮崎大学国際連携係)

資料 (注：実際のアンケート用紙には依頼文と謝辞がある。)

チューター活動に関するアンケート<チューター版>

1、チューターになったきっかけは何ですか？

研究室の先生からの依頼

自らの希望

その他 ()

2、1、で と回答した人に質問です。自ら希望した理由は何ですか？最も当てはまる選択肢に をつけてください。(複数ある場合は順番をつけてください。)

語学を勉強したいから。

留学生と仲良くなりたいから。

海外留学を考えているから。

国際的感覚を身につけておきたいから。

その他 ()

3、担当している留学生とはどのような活動をしていますか？最も当てはまる選択肢に をつけてください。(複数可)

日本語学習や会話練習 (おしゃべりも含む)

授業・研究に関する援助

課題・宿題・レポートの補助

日本文化紹介・文化交流・異文化体験

買い物、ドライブ、食事などの外出

その他 ()

4、担当している留学生と会う頻度は？

毎日

週に1回

2週間に1回

月に1回

それより少ない

5、チューター活動の中で最も大変だったことは何ですか？(複数ある場合は順番をつけてください。)

渡日時の出迎え

大学案内

日本での生活に必要な諸手続きの手伝い
学内で必要な諸手続きの手伝い
講義や日本語学習の手助け
図書館等学内施設・掲示板の案内、成績証明書発行機の使い方
交通機関・買い物の案内
日本文化の理解、日本人学生や他の留学生との交流の手伝い
その他学生生活や日常生活上の相談相手
卒業生・帰国者に対する注意点
その他 ()

6、留学生チューターをしていて困ったことはありますか？

YES or NO

7、6、でYESと回答した人に質問です。

どのようなことで困りましたか？（複数ある場合は順番をつけてください。）

何をすればいいかわからない。
自分は必要ないように感じる。
日本語の教え方がわからない。
その他 ()

8、チューター活動をしていてよかったと思うことは何ですか？最も当てはまる選択肢に をつけてください。（複数ある場合は順番をつけてください。）

留学生と接することで、視野が広がったこと。
語学の勉強ができたこと。
留学生の役に立てたこと。
留学生と互いに成長し合えるような関係を築けたこと。
その他 ()

9、チューター活動の中でもっとよくしたい点があるとしたら、何を改善したいですか？最も当てはまる選択肢に をつけてください。（複数の場合は順番をつけてください。）

日本語学習や会話練習（おしゃべりも含む）
授業・研究に関する援助
課題・宿題・レポートの補助
日本文化紹介・文化交流・異文化体験
買い物、ドライブ、食事などの外出
学校生活や日常生活の相談相手
友人を紹介
その他 ()

チューター活動に関するアンケート<留学生版>

1、あなたを担当しているチューターとはどのくらいの頻度で会っていますか？

- 毎日
- 週に1回
- 月に1回
- それより少ない

2、この頻度に対してあなたはどのように思いますか？

- もっと頻繁に会いたい
- 今のままでちょうどよい
- もっと少なくてよい
- その他 ()

3、チューターとどのような活動をしていますか？当てはまる選択肢に をつけてください。
(複数可)

- 日本語学習や会話練習 (おしゃべりも含む)
- 授業・研究に関する援助
- 課題・宿題・レポートの補助
- 日本文化紹介・文化交流・異文化体験
- 買い物、ドライブ、食事などの外出
- その他 ()

4、チューターとの活動の中で困ったことやもっとこうして欲しいといった要望はありますか？

YES or NO

5、4、でYESと回答した人に質問です。困ったことや要望とはどのようなことですか？最も当てはまる選択肢に をつけてください。(複数ある場合は順番をつけてください。)

- チューターが忙しそうであまり会えない。
- チューターと意思疎通が難しい。
- あまり干渉しないで欲しい。
- もっと日本語を教えて欲しい。
- その他 ()

6、その後どのように解決しましたか？（複数可）

自分から積極的連絡を取ったり、話しかけたりした。

自分から頼んだ。

チューターを替えてもらった。

他の日本人学生と仲良くしていた。

気にしなくなった。

解決できなかった。

その他（

）

7、チューターとの活動を通してよかったと思うことは何ですか？最も当てはまる選択肢にをつけてください。（複数ある場合は順番をつけてください。）

手続き等をスムーズに行うことができた。

語学の勉強の助けになった。

日本の文化や習慣を学ぶことができた。

チューターと互いに成長し合えるような関係を築けた。

チューターを通して、交友関係が広がった。

その他（

）

8、あなたはチューターに何を望んでいますか？最も当てはまる選択肢にをつけてください。（複数ある場合は順番をつけてください。）

日本語学習や会話練習

課題・宿題・レポートの補助

授業・研究に関する援助

日本文化紹介・文化交流・異文化体験

買い物、ドライブ、食事などの外出

交友関係の広がり

その他（

）

参考文献

< 著作 >

横田雅弘, 白土悟 (2004) 『留学生アドバイザーング - 学習・生活・心理をいかに支援するか』ナカニシヤ出版

< 論文 >

小林浩明 (2007), 「チューター制度の改善と留学生アドバイザーング」, 『北九州市立大学国際論集 (5)』, (pp.53-62), 北九州市立大学国際教育交流センター

副田恵理子 (2011), 「チューター活動における日本語学習支援の実態 留学生の視点から」, 『藤女子大学紀要 (1)』 (pp.95-112), 藤女子大学

松本久美子 (2003), 「留学生支援とチューター制度の改善」, 『長崎大学留学生センター紀要 (11)』, (pp.75-90), 長崎大学

< 参考webページ >

宮崎大学国際連携センターグローバルサポートオフィスホームページ (最終閲覧日2012年5月5日)

< その他 >

チューターオリエンテーション資料 (2011年9月27日 宮崎大学国際連携係)

(2012年5月8日受理)